

教育を低下させる府立高校事務職員の 定数削減はやめてください！



府立高校では、4月から授業料が無償になりました。大阪府教育委員会は、これを理由に学校事務職員を各校1名削減するとしています。しかし授業料がなくなっても業務はほとんど減っていないのが職場の実態です。もし削減されれば、「学校が回らない」「教員の生徒と向き合う時間が奪われる」事態が生まれます。

教育条件低下を許さないため、2月府議会に向けて「事務職員減らすな」の声を上げてください！

事務職員は今でもたいへん

府立高校では、5年前にもIT化を理由に事務職員が1名削減されています。従来は事務職員が専門におこなってきた業務を全教職員がパソコン入力することになったのですが、かえって、校長や教頭がコンピュータ処理に忙殺され、教員も教育の仕事の時間を奪われる結果となっています。事務職員の恒常的な残業も増えています。新たな削減どころか、削られた1名を戻してほしいというのが学校現場の共通の声です。

えっ!! 学校の窓口が閉まる？

事務室には保護者や卒業生、進路関係、業者などたくさんの来客や電話があります。事務職員は、出張、研修や休暇など重ならないよう工夫して窓口業務をすすめています。定数削減によって事務室を閉めざるを得ないという可能性もあります。そんなことになれば府民サービスは低下し、在校生も卒業生も困ります。

「国の標準定数を守って」は学校全体の声

ことは「事務室の問題」にとどまらず、教育そのものの切り下げです。国の標準法の定数すら下回る削減案に、府立高等学校長協会・事務長会、府立高校PTA協議会からも再考を求める声があがっているのは当然です。